

自転車目線で自転車環境整備について考えよう！

《BEI Honeycomb》

Let's think about the bicycle environmental improvement in a bicycle glance!

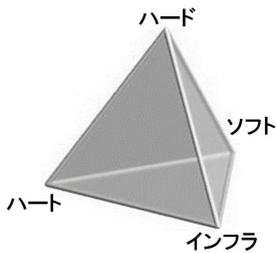
自転車にはスポーツ利用と日常利用の二面性があります。

そのためインフラも多角的に見る必要があると考え、「テトラ・バランス」や「ベイ・ハニカム」を提唱しています。

【Tetra Balance】

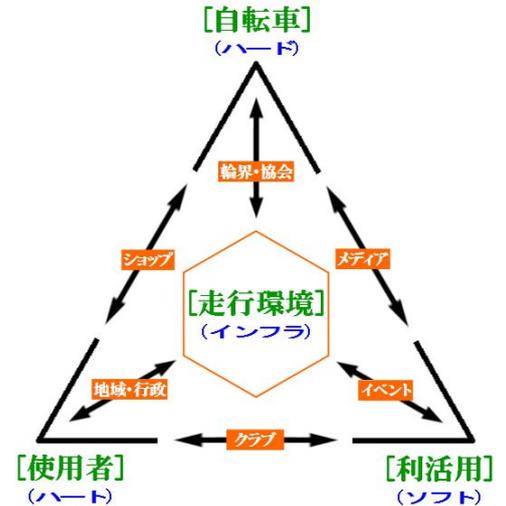
(自転車環境正四面体)

自転車多様性を
ハード、ソフト、ハート、インフラの
4要素に凝縮。



テトラ・バランスは、ハード(自転車／作る・売る・メンテナンス)、ソフト(利活用／競技・趣味・日常)、ハート(使用者／スキル・マナー・ルール)、インフラ(走行環境／道路・施設・セキュリティ)に凝縮した4要素から成る自転車環境正四面体で、走行環境のバランス(≒自転車文化)を表しています！

【自転車環境補助三角形】



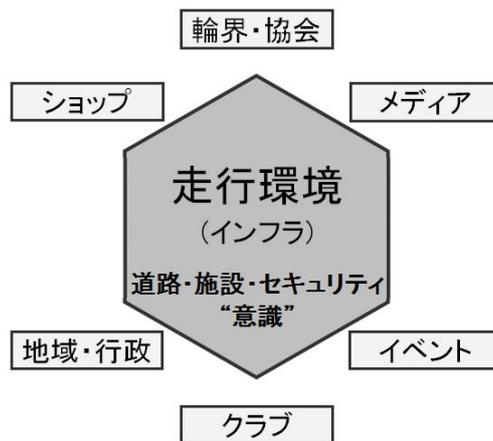
しかし「自転車市民権獲得」が当面の課題の日本では、文化として自転車多様性を語るには若干の無理があるため、インフラとハード・ソフト・ハートの関係を探るための自転車走行環境補助三角形を描いたところ、そこから六つの要素が浮かび上がって来ました！

【BEI Honeycomb】

(自転車環境整備六角形)

「ハード・ハート・ソフト・インフラ」
の関連性から見えてくる6要素。

まだその実効性は不明ですが、「自転車環境整備六角形／ベイ・ハニカム」として環境整備の呼び掛けに応用したいと思います。



ブームから文化へ！ 始まりのためのラストチャンス！？

…ベイ・ハニカムを応用したバイシクルグランスミーティング(BGM)の提案…

Bike is Good! 自転車の良さや可能性は普遍的なものです！

日本自転車環境整備機構(B.E.I.)では「もっと楽しく！もっと便利に！もっと安全に！」をキャッチフレーズとしているように、走行環境には改善の余地が想像以上に多くあると考えています。そしてインフラは、道路や施設だけでなく、セキュリティ、イベント、さらに“意識”までも含むと分析しています。

しかし繰り返されるブームに於いて自転車環境整備は終盤に語られるのが常です。その典型例がマウンテンバイクの山道走行問題ではないでしょうか？

また、スポーツ利用と日常利用を警察は自動車の利用と歩行者の利用と表現しています。つまり自転車利用者は、それぞれの立場で物事を見る「複眼的思考」の資質を持っていると言えます。それが「自転車目線」です！

しかし実情はスポーツ利用と日常利用に段差があるため、自転車市民権の獲得には至っていません。そう言ったブームやひとつの側面では解決できない走行環境問題を扱うには、自転車目線を持つ関係者のネットワーク(BGM)が必要条件と考え、イベントやセルフ出走企画を通じてマナー向上やソフト標準化を模索します。